

---

# 紳士はいつでも紳士であるべき

トロピカル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紳士はいつも紳士であるべき

### 【著者名】

NO2900

トロピカル  
【あらすじ】

これは転生した主人公がチート能力を使って好き勝手するおはなし。

プロローグ

『中華人民共和國憲法』

この事故による死亡者一名　名前　ユーキ・エンクルスト　1  
9歳　グラ星の軌道上の宇宙船ポートで叫んでいたところ宇宙特  
急トラックが突っ込んできて跳ね飛ばされ死亡・・・遺体は吹き飛  
ばされ行方不明。

えつ？なあにこれ？



俺の名はユーキ・エンクルスト19歳。

幼い頃から冒険家の両親について行きで宇宙を駆け巡っていたことにより13歳となり一人前と認められるようになるころには様々な技術や経験、そしても才能があつたのか魔法をマスターしていた。剣術も両親に教わり、子どもたちに人気の魔法剣士マジックナイト、冒險家アドベンチャー、の称号を手に入れてた。

しかし、ここからが大変だった。

なんとあの両親『ユーキ、あなたはもう一人前だわ。だからこの宇宙をひとりで巡り・・・・超かわいいお嫁さんを見つけてきなさい！！（ババ――ン！）「父が後ろで派手な魔法撃つて演出する音』・・・・とか言って一人でどつか行きやがった・・・。

そしてそれからまでは、ヴァルリント宇宙海賊団船長として宇宙をまたにかけていた。なんで海賊なんかやってんのって聞かれたら……まあいろいろあつたんですよいろいろ……。

「ふうむ、なかなか波乱万丈な人生じゃったんじゃなう。」

「まあそりなんでしょうな。といひでいいかげんこじがどこだか教えろジジイー！」

死んだはずの俺が目をさましてからずつと新聞を読みながらゆつくり俺の話を聞いてる正体不明なじいさんは新聞を机に置くところを見た。

この真っ白な空間には俺とジジイ……あと机と椅子と新聞しかない。本当ににもない空間だ。

「んじゃサクッとホヌシがいこにいる理由を説明しちゃおつかの～。まずワシは人間でいづとこいの神様つてやつじや。」

「へ～」

「…………」

• • • • • • • • • • • • • • • •

「言ひてなーじやう

いや別に？

「ツゴホン！ホントウに信じてる？」

「信じてゐかうと言えめんとへやー! わいわと言えー!」

なんか神様（笑）のテンションが異様に低いw

「ワシがトラックに乗つて爆走してたら跳ね飛ばしてしまいました。以上。」

ふむふむ

!

「はあはあ・死ぬかと思った・汗」

「…ちは殺されましたがねー」

なんでこんなのに殺されたんだろ俺・・・調子にのってあんなところで叫ばなかつたらよかつた・・・。

「んで」のあとどうなるんだ俺は？」

まだ地球製のFFとかドラクエとかやりたかったな・・・。・・・。地球のマンガやアニメゲームは最高なのに！！

「転生せやね」

「・・・・は?」

「ダイジヨーブじゃ！！！この世界ではないぞ」かに転生させてやる！そこで新たな人生を謳歌するがよい！！」

「ええー？ ちよまつよーー！」

「心配せんでもええ……ちよつとやそつとで死なないよ」にチートな能力もつけてやるわぞ……！ そんじや逝つてみよ――――――――――――――――――――

「だからーーつてアア—————」

目を開けてられないほど光が俺を包んでいく・・・・・どうなるんだ俺！？

## プロローグ（後書き）

主人公は地球産のゲームとかにはまっているオタクですw

第1話 妹とともに森の中テス

「おこいさまあ・・・おなかすきましたあ・・・」

ジーもユーキ・エンクルストです。いえ、今はアルトマンと名乗っています。13歳です。

んで、今俺を兄と呼ぶこの超絶可愛い金髪幼女が妹のエリスティア。呼び名はエリス。7歳です。いやーそれにしてもまいりましたよ。この世界でなかなか裕福な貴族層の家に生まれ・・

とか思つてたのに、妹が生まれて5年たつたころいきなり家が没落し親は逃げて俺と妹は森に捨てられたんですよー。

この可愛い過ぎる妹を助けるために最初はとにかく必死で盗賊まが

「のじをして商人など襲い金と食料を確保したり、『わざやひ』ノシシや『ラゴン』を殺して焼いて食つたり……。

最初は妹は嫌がつて泣いていたが今では美味しい匂いでぐるぐる慣れつてしまいなー。

「おにこれまああ？ きこてますのー？」

「かドラゴンがいる時点でおかしいですよねー。なんですかこの世界は？ あれですか？ 剣と魔法が友達のファンタジーな世界ですか？」

「そういえば捨てられた直後に神様（笑）にもらった能力がわかりましたよ。名前は『究極召喚』（FFの祈り子になるやつではあります）……まあ要するに召喚獣やら幻獣やら伝説の武器やら宝具、空想上の物で知ってるものなら何でも召喚できます。

「食料が出てきてくれたら楽なのに・・・」

「おにこりやまあの・・・」

いろいろ試したが食料となるものは出でこなかつた。動物系を召喚して肉をくれと頼んだが体は魔力で構成されているらしく食べれない必死な形相で説得された。（召喚した生き物の意思はだいたいわかる）

しかし本物のドラゴンが出てきたときはマジであせつたなー。ドラゴンキラー召喚してなんとか・・・なるわけなかつたよー。こつちはまだ子どもですよー。しかも妹がいるから剣で立ち向かえるわけないですよー。そんなこんなで結局バハムート（FF10）召喚して倒してもらいました。あのドラゴンめっちゃ怯えてたなーですが竜王w

ちなみに捨てられてから一ヶ月経つてますが一向に森から出でていません。この世界は昔のヨーロッパに似ていますがちょっと違うみたいですね。なので森から出て人と関わるのはまだ子どもである俺たちには危険すぎると判断して森の中で修行することにしました。あとログハウスとか服は何故か召喚できましたよ便利ですねーこれw

「グスツおにいちゃんのばあかあああああああーー！」

「エリス君、うつたんだいエリス君へよしお泣かないでくれえほ  
いの瞳こぼれ～～～～！」

「なじゅえりすをむしするんですかあ～～～グスンッ」

やばこ涙田のエリスも可愛こよー～～！

ポカポカと胸を叩いてくるエリスに俺は感動の涙もとい鼻血ができる  
のを必死に抑える。さすがにこれはやばこよ紳士として。

「「「ぬぐ」ぬぐりよつと勧め事してたんだよ。これからどうしよう  
かと。」

「えつかせおにこやまとこっしょならなんでもいいです～～！」

そう言って二二口と微笑んでくるエリス。

「がふつー」(吐血する音)

これに俺が耐えれるわけありません。

「おここれーへおここれまああああああああーー。」

反則だよエリス・・・・・

## 第2話 なんか変・・・

「おここれ見て見て～ ジヌアリベキニサニヨ～。」

「やつもゴーキ・・・・もとこアルトマンです。14歳です。

ただいま妹のエリス8歳が俺の四喰したアルトマウホポンを自由自在に振り回してアラゴンを斬りつけています。

あ、今アラゴンの首を切り落とした・・・・。

えと・・・・。

どうしてこうなった . . . . o r z

なんと俺が前世で習得していた魔法剣士と冒険家の技術をなぜか工  
リスが引き継いでいました。

なにをしたんだ神様（笑）め！！

まあエリスが自分の身を多少守れるようになつたのはいいことなんですね。エリスの可愛らしさに惹かれて変な口ironおじさんに誘拐などあつては大変ですから。

（泣）しかしおしゃとやかで血を見る」ことが嫌いなエリスが今ではドラン  
を惨殺するほどに・・・あれ？どこで教育間違えたのかな・・・（

やはり護身用としてエリスに剣を与えたのが間違いでしたか・・・だつてこれ欲しいってせがむんだもの・・・涙目+上目づかいで・・・どこでそんなテクを覚えてしまったのやら・・・効果抜群じやないか！！

「お、これか～早速お嘗めなさい」とさすがに笑み、「へー。」

「わかった。今日はステーキにしようかな? つとその前にお風呂に入ってきてなさい。」

「はい！」

汚れたままのがよほど嫌だったのか大急ぎで風呂に駆け込んでいくエリスをみてつい笑ってしまう。

まだ家が没落する前ではエリスは走ることもひとりで着替えることも許されていなかった。まったく淑女はおしとやかにとかいってあのクソババアども！

昼飯を作り終えたので結構風呂がながいエリスを待つ。ちなみにこの家の風呂は五右衛門風呂で下に宝具『レー・ヴァ・テイン』を刺しておくと剣の熱気を調整すればでちょうどいい温度にvvv

宝具のむだ使いですねすいませんvv

でも使えるものは使わないとね！

「「いただきまーーーす」」

「のあこせつは前世の旧地球の日本の國ものです。俺がアニメやマンガによく出でぐるこのあいさつが気に入り家をでてからずっとつかっています。（Hリスもおもしろがってマネてる・・・カワコス！）

そうそ、Hリスにそろそろ旅に出ることを伝えなければ。俺達はもうドーラゴンやら山賊やらは樂に倒せるようになつたので旅に出でみよいかと。エリスをいつまでもこの森に閉じ込めておくわけにもいかないです。

「とこうわけで明日から旅にでましょ、エリス。」

「ホントー？」

ガバッとテーブル越しに身を乗り出してきた。食べている途中なので口の中のものが俺の顔に振りかかる。

エリスの食べたものが俺の顔に・・・。

いただきます！

「うひーめさんさにおにこをまーー今拭き取りますから」

「顔をりんごみたいに真っ赤に染めてあたふたしてるエリスを見て・  
・いいこと思いついた！」

「エリス・・雑巾で顔を拭かれては痛いので・・・舐め取ってくだ  
さいー！」

「うえー!? 無理だよはずかしいよーー! あつでも・・・ゴー! モ  
『ゴー! モー』

そりそり赤くなつて面白いですねー。

まあやんやんかわいいくになつてきただので[冗談だと書いてあげます  
か(笑)

「 ハロースー今のはじめ ・・・」

「 おにこわせがわいのむしゃるのなはーーー・・えりすこわせーー  
ーすーー。」

「 えつーー?..」

何があつたのかは、想像におまかせします。//

## 第2話 なんか変・・（後書き）

描写？エリスのあんなうれし恥ずかしいことを紳士を俺がするとおもうか！？

え？紳士ならともそもあんなこと言わない？

サービス

## 第三話 説明から始めるのむー。

「おとうさんへお宿我まりませんか？」

「それまでの向回田だエリス？」

「57回田ですか？」

心配そうに俺を抱きしめて見つめてくるエリス。

生まれてきじよかつたーお兄ちゃん一生エリスを守り続けるよー。  
もうひん嫁にはだせん!!

つてのはまあ冗談として・・・。

何故エリスがこんなに心配しているのかといつて、やつを森を出て初めて入った町が原因だ。

「エリス、乗り心地はどうだ？」

俺達は俺が召喚した馬車でくつろいでいる。馬車を引くのはこれまで召喚した2頭ギヤロップだ。脚力と知能が高いしモンスターが襲つてきても撃退できるように強いヤツを召喚しようと思つて頭に思い浮かんだのがコイツらだ。

召喚したやつは召喚者である俺に従うため触らせてもらつたが触り心地が最高だつたと言つておこづか。

もはやんHリスにも従い守るよひ厳命してある。

「もう少し揺れると思つてたのですが・・・この馬車は揺れが少ないシートはふかふかだし最高の馬車ですね」

花が咲き誇るよつな笑顔いただきましたーーー幸せだ俺w

「あ、あれ町ですよー！」

エリスがどうやら町を見つけたみたいだ。なうそろそろ幻術でギャロップと俺たちの姿を変えるか。

言つてなかつたが俺は前の世界の魔法を使えるようになつていた。  
どんどん最強に近づいていつてるぜ w

「エリス、今から幻術で姿を大人にするぞ」

「美人にしてくださいね（笑）」

エリスのクスクス笑つている姿もかわ・・・いかんいかん

「いぐぞ・・・眞偽交わる幻影の精靈よ、姿を惑わせ!」

『イリュージョン  
我包む幻想の現実』

「わ～おにいさまがムキムキなオジ様になつてゐる～」

「エリスも美人さんだよ」

こうなりましたw

俺＝ジャック・ラカン（ネギマ）

エリス＝惣流・アスカ・ラングレー（エヴァンゲリオン）

ギャロップ＝普通の馬に

服装はエリスは町娘風で俺は冒険家みたいだ。

ちなみに普通の幻術とは違うこの体は実体であるのがすごいことだ。

魔力で構成されているがよほど強い魔法を受けない限り解けることはない。

んで町に入り馬屋に馬車を預けて宿を探すところでは順調だったのだが・・・。

なんだこれ？

「お嬢さん私と結婚してくださいーーー。」

「おー」「邪魔すんな俺が先だ！」

「僕は貴族だぞー平民共はきえろーーー。」

「俺も貴族だバカーーー！」

「貴族なんか関係ないーーー！」

エリス（アスカモード）に男どもが殺到してきやがった・・・殺す  
か・・。

「おいテメーら「邪魔だおっさんーきえーーひーーー」・・・OK  
君等のことによくわかった」

「マイシラハ害虫ダーーー！」

そつから俺の拳でのO h a n a s i が始まったW

「おにこさまカシコよかつたですーーー私のために・・・ボーー」

なんかエリスが顔を赤くしていろがやめつこの害虫どものせいか。  
やはり町は危険だ。

「レーハチだーあの暴漢をひとつりえろーーー！」

「へやつまだこつねーのか」

れつも殴り飛ばした貴族どもが私兵を集めて来やがった。それにしても多い。もしかしたらこの町のほとんどが俺らを追つかけてくると想ひせじだ。

「つむつたり・・・・・

「この町消すか。」ヤリ

「召喚……イフコートオ……燃やし切らせる……」

俺の周囲に現れた召喚陣から炎をまとったマッチョのおっさんが現れる（エクライシスコア版）

「ヒース逃げるやー」

「ややー」

炎のマッヂョおっせん<sup>イフリート</sup>の降り注ぐ火の雨、燃え盛る町を俺達は笑いながら脱出した。

手強くてしつゝ追手はエリスを馬車のもとに行かせ俺が殺しておいた。しかし、そのとき服に相手の剣がかすつたのでエリスが破れた服を見たときから冒頭のやつとりは始まつたのである。

その後賞金首になりました（笑）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0290o/>

紳士はいつでも紳士であるべき

2010年10月10日04時17分発行